

基礎能力をつけるための一考察

柳原小学校 桜井 淑 世

4月1年生の受持となって第一に考えましたことは1年生のうちに基礎能力殊に国語算数の基礎をしっかりとかためたいということでした。

高学年の先生、或は中学の先生方が低学年で基礎をしっかりと打込んでおいてもらわないと因高学年になるとなかなか個人差が大きくなって手におえなくなる、という言葉をよく耳にします。で、私は、1年で習得すべきひらがな50音と数字及び10以下の構成、分解だけでも全部の子に習得させたいと思ひましてこのことを目標にこの1年間受持の55名(男26、女29)の児に接してきました。

次に今までの指導の大略(特にここには国語のみを掲げることにする)を述べたいと思ひます。

1. 調査の目的

- 実力をつけるためには先づ実態調査から始めなければならない。
- 児童の実態の上にたった適切な指導がそこから考えられる。
- こうして調査と指導がくりかえされる。

2. 調査の期日

- 読むことの調査は第一回を6月、第2回を9月、第3回を1月の3回にわけて行った。
- 書くことの調査は清音を12月に、濁音、半濁音を1月に行った。

3. 調査の方法

(A) 調査の方法

ひらがなの読むこと、書くことの能力を調査する方法としては

- ① 「はな」「こま」のように、ことばとして調査する方法
- ② 「す」「な」「や」「ま」のように1字1字として調査する方法

の2つが考えられるが、ここではどの字がどのように読めたか、どのように書けたかを調べるために1字1字を読み、または、書かせる方法をとった。

(B) 読むことの調査

① 調査前の注意

6年生55名に応援を願ひひとりひとりのこどもについて調査した。

きょうは、みなさんが、ひらがなを、どのくらい読めるか(知っているか)調べさせています。お兄さん、お姉さん(6年生)にわかるように、はっきりいって下さい。読め

基礎能力をつけるための一考察

柳原小学校 桜井 淑 世

4月1年生の受持となって第一に考えましたことは1年生のうちに基礎能力殊に国語算数の基礎をしっかりとかためたいということでした。

高学年の先生、或は中学の先生方が低学年で基礎をしっかりと打込んでおいてもらわないと高学年になるとなかなか個人差が大きくなって手におえなくなる、という言葉をよく耳にします。私は、1年で習得すべきひらがな50音と数字及び10以下の構成、分解だけでも全部の子に習得させたいと思ひましてこのことを目標にこの1年間受持の55名(男26、女29)の児に接してきました。

次に今までの指導の大略(特にここには国語のみを掲げることにする)を述べたいと思ひます。

1 調査の目的

- 実力をつけるためには先づ実態調査から始めなければならない。
- 児童の実態の上になつた適切な指導がそこから考えられる。
- こうして調査と指導がくりかえされる。

2 調査の期日

- 読むことの調査は第一回を6月、第2回を9月、第3回を1月の3回にわけて行った。
- 書くことの調査は清音を12月に、濁音、半濁音を1月に行った。

3 調査の方法

(A) 調査の方法

ひらがなの読むこと、書くことの能力を調査する方法としては

- ① 「はな」「こま」のように、ことばとして調査する方法
- ② 「す」「な」「や」「ま」のように1字1字として調査する方法

の2つが考えられるが、ここではどの字がどのように読めたか、どのように書けたかを調べるために1字1字を読み、または、書かせる方法をとった。

(B) 読むことの調査

① 調査前の注意

6年生55名に応援を願ひひとりひとりのこどもについて調査した。

きょうは、みなさんが、ひらがなを、どのくらい読めるか(知っているか)調べさせています。お兄さん、お姉さん(6年生)にわかるように、はっきりいって下さい。読め

らって心配しなくてもいいんですよ。

調査の方法

プリント用紙を配る。(別紙貼布)

児童1人に6年生が1人つく。

個別に調査する。

1. と、り、な……と1字ずつ指し読ませる。読めた字は上段に○をつける。

2. 2回目を中段に3回目を下段につける。

清音 46字

ほ	は	か	あ	ゆ	と
ふ	て	し	け	め	り
ね	お	を	わ	さ	な
む	き	そ	た	ま	く
れ	つ	ら	る	せ	こ
ぬ	へ	い	ひ	み	え
も	に	ろ	ん	よ	す

濁音、半濁音25字

文字の提出順序は次のとおりである。

べ	で	ぞ	ぶ	が
ぶ	ぜ	つ	ぐ	さ
ば	ぎ	だ	げ	ち
ぼ	じ	ど	ご	び
び	へ	ぼ	ず	ば

調査した児童数

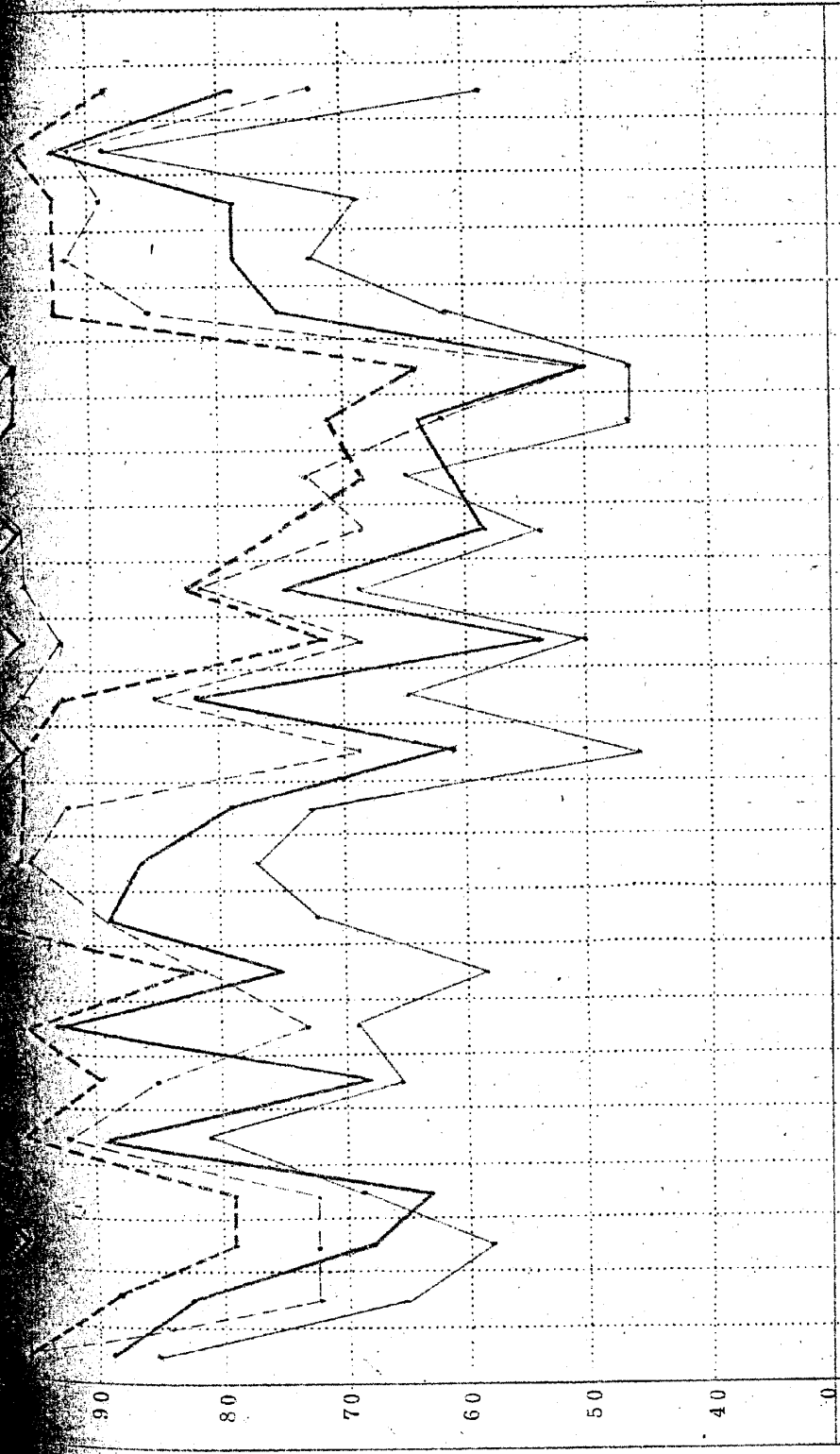
調査した児童数は、調査した字数は、清音46字(わ行の「ゐ」「ゑ」の2字を省く)濁音20字、半濁音5字の71字である

ひらがなを読む能力 (%)

回数	1	2	3	
清音	男	68.1	81.8	98.9
	女	79.4	89.1	99.5
	平均	74.0	85.8	99.2
濁音			男	92.8
			女	98.7
			平均	96.3
半濁音			男	90.0
			女	91.7
			平均	90.5

調査を受けた児童数は55名で清音の1回目についていえば男68パーセント、女79パーセントにあたるものが清音46字を読みうるということの意味している。平均は、74パーセント。2回目は男81、女89、平均は85パーセントということになる。

しをそらいりをはておきつつへにほふねむれぬもやのうち



濁音20字は男92パーセント、女99パーセント、平均91パーセント。半濁音は男91パーセント、女92パーセント、平均91パーセントが読みうる事がわかる。

次に調査した46字（清音）につきどの字がどれ位読めたかグラフに表わしてみると比較的多く児童が読みえた文字は（第1回ので）

「とくせよあたしいりこう」である。これらの文字は簡単でもあり日常生活において使用されることが多い。

「と」は「とんぼのと」「とけいのと」	「し」は「しかのし」「しろいのし」
「く」は「くしのく」「くまのく」	「い」は「いぬのい」「いしのい」
「せ」は「せんせいのせ」「せみのせ」	「り」は「りやかのり」「りんごのり」
「よ」は「ようふくのよ」「よるのよ」	「こ」は「こまのこ」「ことのこ」
「あ」は「あひるのあ」「あさがおのあ」	「う」は「うしのう」「うさぎのう」
「た」は「たこのた」「たんぼのた」	

というように、家庭及びその他の環境にあるだけに身近に感じこれらの文字に親しみを持ち多くものが知っているのだと思う。

「ぬれへはねむめ」などのように複雑な文字は、読みちがいが多かった。「ぬ」と「め」の区別つかず「ね」と読むものもあり「へ」を「く」と「れ」は「ね」とあやまりやすく「で」と発音するものも多かった。

こんな事から1日10分ずつカードとりをさせることにした。最初はじゃんげんで勝った人が後方をだして並べる。

(男)	才一回の読み	(女)
96~100		りよ
91~95		こせほう
86~90	う	とくえまあたんしいおき
81~85	とくせよあたかしい	なすさみけるひをに
76~80	りこみき	わかつやのち
71~75	るおつや	めてふも
66~70	すけんらはふの	ゆそろ
61~65	えさまひをろにむも	らへむれ
56~60	なゆめそてち	ね
51~56	わね	ほ
46~50	へほれぬ	ぬ

「のへ」「れんげのれ」「ぬりえのぬ」というようにいつてやる。1字もしらない児童も絵から負けまいと真剣である。今日は6枚、明日は8枚というように楽しみながら自然に絵かきを習得している。またとったカードでことばをつくり並べてみる。「いぬ」「いね」。「きね」「ぎね」のように並べちがいを知る。文字は、図形とちがって抽象度の高いものなのでむずかしい。

同じところを発見できる力
ちがうところを発見できる力

つづけることが大切である。そのために、まちがいやすい字は何度も見なれさせ1度に出さないで、形の形をよくおぼえてから、はじめて次をだすようにしたい。そして、その時にも前の字とコンパチのおこらないように、そのちがいをはっきりさせた。

指導をつづけ9月に第2回の読字力調査をした。この時は第1回に読みあやまりやすい文字に慣れて行った。結果は左の表でもわかるように男女とも、15パーセントから20パーセントに下がっている。

第2回の読み	
(男)	(女)
80~85	め
75~80	む
70~75	へほねれ
65~70	へほね む
60~65	れめ
55~60	ぬ
50~55	
45~50	ぬ

凡に読みやすい「お、か、あ、こ」などの文字は、100パーセントにいつている。

こうして9月も半ばを過ぎると遅れている児童と進んだ児童の差は大きくなって来た。進んだ児童には、文字だけのカードで2字のことば「たこ」「はな」3字のことば「みるく」「ぼたん」など並べさせ速くまちがいないようにする。又しりとり遊びなども数多く考えさせた。

遅れた児童は1グループに集め絵カルタをだんだんはやくとれる様に、絵から文字のかかるたえと進める

練習した。学校だけではわずかの時間なので家庭へ連絡し夕食後のひととき家中でカルタ会をしていただくように再三お願いした。

第三回、1月には100パーセントを目標に進んできた。

第2回の読字力の調査の結果「ぬ」が最低で86パーセント、その他は96~100パーセントに上った。「ぬ」は「め、ね、れ、わ」に似ているので遅進児にはなかなか区別ができていないらしい。

「ぬ」は「め」1つだよといっている。

第3回で清音46字を3回にわけ読みを調べたが終りに濁音、半濁音の結果をまとめてみる。(上図)の結果でもわかるように男に比べ女がはるかによい成績をおさめている。これは、生活環境の相違が男に比べ女は落着きがあり熱心な点もかわれるのではないかと思う。

読み 濁音 半濁音

が	100	ず	923	ど	923	ば	88
	100		100		100		89
ぎ	962	ぜ	923	ぼ	962	び	92
	100		100		100		100
ぐ	962	ぞ	923	び	923	ぶ	92
	100		100		966		86
げ	962	だ	923	ぼ	962	べ	92
	100		100		100		96
こ	962	ぢ	962	く	808	ぼ	84
	100		862		966		82
さ	923	づ	923	ぼ	885		
	100		100		966		
じ	923	で	885				
	100		100				

書くことの調査

(1) 調査の方法

- 学級の児童を男女別にわけ隣の児童の書くのが見えないように、ひとりひとりすわらせに男だけを調査する。
- 書くことの記入用紙を児童にくぼって、学級、名前をかかせる。
- 1字を書く時間は、およそ15秒、(挙手3分の2位)15秒たったら書けないものがあるても×をつけて次に移る。
- 書かせる場合の読み方
1番「と」「とんぼのと」2番「り」「りんごのり」のように読み児童は読み終るのをまっかく。1字を書かせるために最初に1回、途中で1回と2回くり返して読んでやる。
- 書かせる順序と読んでやることば

(1) と とんぼの「と」

(3) な なのはなの「な」

(2) り りんごの「り」

(4) く くりの「く」

- | | |
|-------------|-----------------|
| こ こまの「こ」 | (26) ら らっぱの「ら」 |
| え えんそくの「え」 | (27) い いろがみの「い」 |
| す すしの「す」 | (28) ろ ろうそくの「ろ」 |
| ゆ ゆうひの「ゆ」 | (29) は はたの「は」 |
| め めだかの「め」 | (30) て てつぼうの「て」 |
| さ さけの「さ」 | (31) お おにの「お」 |
| ま まめの「ま」 | (32) き きつねの「き」 |
| せ せみの「せ」 | (33) つ つめの「つ」 |
| み みかんの「み」 | (34) へ へちまの「へ」 |
| よ ようふくの「よ」 | (35) に にんじんの「に」 |
| あ あひるの「あ」 | (36) ほ ほりの「ほ」 |
| け けいとの「け」 | (37) ふ ふねの「ふ」 |
| わ わたの「わ」 | (38) ね ねこの「ね」 |
| た たるの「た」 | (39) む むしの「む」 |
| る るすばんの「る」 | (40) れ れんげの「れ」 |
| ひ ひよこの「ひ」 | (41) ぬ ぬりえの「ぬ」 |
| ん こくばんの「ん」 | (42) も ももの「も」 |
| か かきの「か」 | (43) や やまの「や」 |
| し しかの「し」 | (44) の のはらの「の」 |
| を そらをとぶの「を」 | (45) う うしの「う」 |
| そ そらの「そ」 | (46) ち ちかてつの「ち」 |

- | | |
|-------------|------------------|
| が がっこうの「が」 | (11) そ そうりの「そ」 |
| ざ ざぶとんの「ざ」 | (12) づ だちづでどの「づ」 |
| ち だちづでどの「ち」 | (13) た だんごの「た」 |
| び びわの「び」 | (14) ど どんぐりの「ど」 |
| ば ばなの「ば」 | (15) ほ ぼたんの「ほ」 |
| ぶ ぶどうの「ぶ」 | (16) で でんしやの「で」 |
| ぐ ぐろうぶの「ぐ」 | (17) ぜ ぜんまいの「ぜ」 |
| げ げたの「げ」 | (18) き ぎんこうの「き」 |
| ご ごはんの「ご」 | (19) じ じどうしやの「じ」 |
| ず ずばんの「ず」 | (20) べ べんきよの「べ」 |

- (1) ペ ほっぺたの「ペ」 (4) ほ けっほんの「ほ」
 (2) ふ きっふの「ふ」 (5) び えんびつの「び」
 (3) ば おっばいの「ば」

以上清音46字、濁音20字、半濁音5字の71字について行った。

書かれたものについて多少の字形のくずれは許容した。字形は整っていても、点画が不足した
 すぎたりしているものは誤答とした。

書くことの正答率

ひらがなを書く正答率

(1) 清音	男	87.7
	女	92.9
	計	90.5
(2) 濁音	男	88.3
	女	95.2
	計	91.9
(3) 半濁音	男	83.8
	女	94.5
	計	82.2

清音についていけば男88パーセント、女は93パー
 セントで5パーセントうまわっている。濁音、半濁音につ
 同様のことがいえる。

1字1字につきどの字がどれ位書けたかをみると上図の
 でこれをまとめてみると次の様になる。

161 ひらがなの かきとり 清音

と	男	92.3	さ	男	96.2	る	男	92.3	ろ	男	84.6	ふ	男	80.0
	女	100.0		女	96.6		女	96.6		女	96.6		女	82.0
	計	96.4		計	96.4		計	94.5		計	90.9		計	82.0
り	男	80.8	ま	男	92.3	ひ	男	76.9	は	男	92.3	ね	男	80.0
	女	96.6		女	100.0		女	86.2		女	89.7		女	80.0
	計	89.1		計	96.4		計	81.8		計	90.9		計	80.0
な	男	96.2	せ	男	88.5	ん	男	88.5	て	男	96.2	む	男	80.0
	女	96.6		女	93.1		女	89.7		女	96.6		女	80.0
	計	96.4		計	90.9		計	89.1		計	96.4		計	80.0
く	東	92.3	み	男	92.3	か	男	96.2	お	男	96.2	れ	男	90.0
	女	96.6		女	100.0		女	62.1		女	100.0		女	100.0
	計	94.5		計	96.4		計	78.2		計	98.2		計	98.2
こ	男	76.9	よ	男	92.3	し	男	96.2	き	男	88.5	も	男	90.0
	女	86.2		女	96.6		女	93.1		女	100.0		女	100.0
	計	81.8		計	94.5		計	94.5		計	94.5		計	94.5
え	男	92.3	あ	男	92.3	を	男	92.3	つ	男	92.3	や	男	80.0
	女	100.0		女	100.0		女	93.1		女	96.6		女	96.6
	計	96.4		計	96.4		計	92.7		計	94.5		計	96.6

男	928	け	男	885	そ	男	846	へ	男	808	の	男	885
女	100		女	966		女	966		女	897		女	100
計	964		計	927		計	909		計	855		計	945
男	808	わ	男	885	ら	男	928	に	男	846	う	男	885
女	966		女	981		女	981		女	966		女	981
計	891		計	909		計	927		計	909		計	909
男	846	た	男	928	い	男	928	ほ	男	577	ち	男	808
女	100		女	897		女	966		女	798		女	897
計	927		計	836		計	945		計	691		計	855

62 ひらがなの かきかた 濁音
半濁音

男	962	ず	男	808	ど	男	962	ば	男	928
女	100		女	689		女	100		女	981
計	999		計	748		計	999		計	927
男	846	ぜ	男	846	ぼ	男	928	び	男	885
女	966		女	100		女	100		女	100
計	995		計	923		計	961		計	942
男	962	ぞ	男	808	び	男	928	ぶ	男	846
女	100		女	897		女	100		女	100
計	999		計	852		計	961		計	928
男	962	だ	男	846	ぶ	男	962	べ	男	769
女	100		女	966		女	100		女	966
計	999		計	906		計	999		計	867
男	928	ぢ	男	885	べ	男	808	ぼ	男	769
女	981		女	981		女	981		女	828
計	927		計	908		計	869		計	798
男	885	づ	男	808	ぼ	男	885			
女	100		女	724		女	100			
計	942		計	766		計	942			
男	846	で	男	885						
女	100		女	100						
計	928		計	942						

分率)	男	女
100	さなかしておもがぐげどぶ	びべぶさじぜだでどぼびぶ ぼとりなくえすゆめさまみ よあけるそいろておきつに ものがぐげ

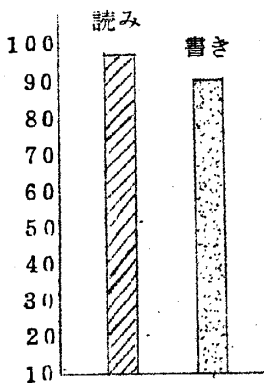
91~95	とくえすまみよあごたる をらはつぼびば	せわしをうれやごちべば
86~90	せげわんきねやのうさち でぼびぶ	こひんはへねぞ
81~85	りゆめそろにふむぎじず せそだづべ	ふむぼ
76~80	こひへべぼ	ぼぬ
71~75	れぬ	つ
66~70		ず
61~65		か
56~60	ほ	
51~55		

ひらがなの書きとりでは、聞きちがいが多く「れ」を「で」「ぬ」を「ね」「ほ」を「ほ」「ほ」音、半濁音では「、」「。」を忘れるものも多かった。

この他「め」を「ぬ」と「ろ」を「る」「お」と「を」「じ」と「ち」「つ」と「ず」「で」を「手」「ひ」を「日、火」「し」を「日」「お」を「大」「や」を「山」「こ」を「子」と書く誤りが立った。

ひらがなの読み書き

ここに示すものは清音、濁音、半濁音の71字を1括して、総体的に見たもので、1字1字についていっているのではない。左の図でもわかるように、読むことよりは、書くことに学習上の困難が現われてくる。読むこと95パーセントに対して書くことは91パーセントになっているから難度は読むことよりも書くことに強いということになる。



読み書きの比較

(1) 読み	95 %
(2) 書き	91 %
(1)(2) の比率	95.8 %

書くことに困難を感じる文字にはどのようなものがあるか。

ひらがなを書くことについて、ひらがなを書くことについて、その80パーセントのものが書き取りの限界にし振わなかった6字について指導する。

(百分率)

71 ~ 75 れ、ぬ、づ

66 ~ 70 ず

61 ~ 65 か

56.6 ~ 60 ほ

「れ」は多く「で」と聞きちがえたり 木れ、ね、れ

「ぬ」は ちぬ、ぬぬ の

「づ」は ず

「か」は カカ

「ほ」は ほ、ま、ほ

「ず」は づ(使いわけができない)

な誤りがみられたので子どもに興味のある単語をまとめて、その「筆順」とともに書きかた
指導した。こうすることによって、形についても一そうよくおぼえるのではないかと思う。

またたてたことは、この1年間にのこした、私のクラスの児童の、ひらがなの読み書きの実態
です。このうえにたって、ひとりの遅進児もつぐらないよう努力していきたいと思います。